漢文：返り点と送り仮名をたどり、書き下しと音読をつなぐ

講師用メモ・バージョン 2

5ページです。最初の2ページは説明用の短い原作例、後半3ページは別の原作例C1〜C6です。主な漢字は大きく、送り仮名は右下、返り点は左下に独立した文字として配置しています。薄い位置番号は上からの位置で、読む順序を示す正解ではありません。図を動かすときはまとまりを選び、文字だけを動かして訓点の対応を崩さないよう確かめてください。書き下し、現代語訳、音読を別に観察し、この課題では図の漢字・送り仮名を保つ条件に従います。学習者が別表記を使った場合は、何を表す課題か確かめて支援します。正しい番号列だけで理解したとは判断しません。古典の原文の引用ではなく、教材用に作成した短文です。実際の授業での試用はまだ行っていません。

練習問題の解答はこの講師用メモに分けています。編集版であり、実際の授業での試用はまだ行っていません。

別の訓点図で確かめる 1

C1. C1の訓点図を見て、位置番号による読む順序と書き下し文を書いてください。戻る場所の印を指し、送り仮名を含めて音読してください。

解答・確認の観点：順序2→1。花を見る。見の左下のレ点で下の花を先に読み、見へ戻る。花のヲと見のルを読む。

C2. C2の図では、上から位置1、2の順に読めるでしょうか。読む順序と書き下し文を示し、判断した印を説明してください。

解答・確認の観点：1→2ではなく2→1。詩を読む。読にレ点があるので詩を先に読む。位置番号は紙面の上からの順で、読む順序の正解ではない。

別の訓点図で確かめる 2

C3. C3の図を、返り点と送り仮名を確かめながら読んでください。読む順序、書き下し文、戻る前に読む二つの文字を示してください。

解答・確認の観点：順序2→3→1。遠き山を望む。遠、山を読んでから二の付いた望へ戻る。遠の送り仮名キを落とさない。

C4. C4の図を読んで書き下してください。「鳥」と「声」の関係をどの送り仮名が表すか、またどの印で「聞」に戻るかを説明してください。

解答・確認の観点：鳥の声を聞く。順序2→3→1。鳥に付くノが鳥と声のつながりを示す。声の一から聞の二に戻る。

別の訓点図で確かめる 3

C5. C5の図に対して「青い山を見る」と書いた人がいます。図の送り仮名を保った書き下し文に直し、直した箇所を示してください。現代語訳との違いも説明してください。

解答・確認の観点：青き山を見る。新しい意味へ変えるのではなく、青の送り仮名キを保つ。「青い山を見る」は意味を現代語で表す場合の例で、この課題で指定した書き下しの表記条件とは分ける。順序2→3→1。

C6. C6の図で、読む順序と書き下し文を示してください。最後に図を指しながら音読し、最初の書き方を直した場合は、根拠にした返り点や送り仮名を説明してください。

解答・確認の観点：順序2→3→1。友の書を読む。友ノ、書ヲを読んだ後、書の一から読の二へ戻る。書は図の文字を保ち、本など別の現代語へ置き換えない。音読と見直しの理由は実際の発話・書き込みを講師が確認する。

利用と出典表示

© 2026 MomentDesk / PRYADKO DANILA. 無料・有料の授業で利用し、自分の授業用に変更できます。共有時はMomentDeskの出典表示を残してください。テンプレートの転売や、自作としての再公開はできません。

文部科学省・中学校国語編・中1の音読と訓読（冊子49〜50/PDF53〜54）— https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_002.pdf#page=54

文部科学省・高校国語編・言語文化の訓読のきまり（冊子119/PDF125）— https://www.mext.go.jp/content/20250410-mxt_kyoiku01-100002620_02.pdf#page=125